

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 調剤実績

当第2四半期連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年6月1日 至 平成22年8月31日) (枚)	前年同四半期比(%)
三重県	168,208	103.7
大阪府	51,879	103.7
京都府	56,313	110.3
山梨県	30,107	99.6
神奈川県	29,908	100.1
その他	82,275	104.4
合計	418,690	104.1

(2) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年6月1日 至 平成22年8月31日) (千円)	前年同四半期比(%)
調剤薬局事業	薬剤料	3,215,640	103.1
	技術料等	882,991	107.2
小計		4,098,632	103.9
医薬品卸事業		163,458	103.0
ヘルスケア事業		144,262	111.0
不動産事業		18,692	103.5
合計		4,425,045	104.1

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当第2四半期連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日) (千円)	前年同四半期比(%)	当第2四半期 連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	1,473,336	102.3	31
大阪府	687,431	109.9	9
京都府	573,506	110.4	8
山梨県	315,970	93.1	1
神奈川県	248,711	99.7	3
その他	799,676	103.9	20
合計	4,098,632	103.9	72

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善や緊急経済対策等の効果により景気回復の兆しが見られましたが、依然として厳しい雇用情勢に加え、海外経済の減速懸念や急激な円高進行など、先行き不透明な情勢の中で推移いたしました。

このような経営環境の中で当社グループは、コア事業である調剤薬局事業におきましては、体制強化を推進しつつ業容の拡大に向け取り組むとともに、医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の普及促進策が推進されている状況下を好機と捉え、積極的な営業活動を推進してまいりました。また、ヘルスケア事業におきましては、有料老人ホームを新たな成長エンジンと位置付けし、今期から3年間で10施設の開設を経営目標とし、持続的かつ安定的な成長に向けて取り組みを強化してまいりました。

以上の結果、売上高4,425百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益223百万円(前年同期比3.1%増)、経常利益210百万円(前年同期比10.2%増)、四半期純利益109百万円(前年同期比14.1%増)となり、いずれも順調に推移しました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

(調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、安全性を最優先した店舗運営を進めるとともに、経営の効率化を推進する中で収益力の向上に取り組んでまいりました。その結果、既存店舗では処方箋応需枚数が増加し、売上高4,098百万円(前年同期比3.9%増)、営業利益302百万円(前年同期比8.2%増)となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、平成22年4月の薬価改定による薬価引き下げの影響を受けたものの、ジェネリック医薬品の普及促進策が進められる中で、売上高が前年を上回り進捗いたしました。その結果、売上高163百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益10百万円(前年同期比18.1%減)となりました。(内部売上高を含む売上高は220百万円となり前年同期比6.3%増加)。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、既存の介護施設3施設に加え、平成22年8月にハーモニーハウス出雲(島根県)を開設し、開設に伴う費用20百万円を計上したものの、既存施設が順調に推移した結果、売上高144百万円(前年同期比11.0%増)、営業利益4百万円(前年同期比75.4%減)となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、安定した賃料収入により、売上高18百万円(前年同期比3.5%増)、営業利益10百万円(前年同期比5.4%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は11,259百万円となり、前連結会計年度末と比較し397百万円増加いたしました。

流動資産の合計は4,893百万円となり、前連結会計年度末と比較して353百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加190百万円、及び売掛金の増加113百万円によるものです。

固定資産の合計は6,366百万円となり、前連結会計年度末と比較して44百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産の増加70百万円、投資有価証券の減少57百万円によるものです。

負債総額は7,822百万円となり、前連結会計年度末と比較して267百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加199百万円、及び長期借入金(1年内返済予定を含む)の増加130百万円によるものです。

純資産は3,437百万円となり、前連結会計年度末と比較して129百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益245百万円、配当金の支払額67百万円によるものです。この結果、自己資本比率は30.5%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は第1四半期連結会計期間末と比較して183百万円増加し2,081百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は80百万円(前年同期比20百万円の減少)となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益209百万円であり、主な減少要因は、賞与引当金の減少額78百万円、売上債権の増加額57百万円、仕入債務の減少額78百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は169百万円(前年同期比117百万円の増加)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出93百万円と、投資有価証券の取得による支出35百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は272百万円(前年同期は195百万円の支出)となりました。主な要因は、長期借入金の純増加額324百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。